

個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き

お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



鈴の入った転がり円柱
鈴の入った円柱があります。円柱が転がることで鈴の音がしてハイハイやすりばいを促します。とても興味深く見ている活動です。



ステア
両端に3段ずつ段差があり、昇り降りを楽しめます。ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きを促すとともに、段差での身体の使い方も身につけていきます。

1Cのモンテッソーリ活動



シール貼り
シールを台紙に描かれた枠内に貼っていくお仕事です。最初はバラバラに貼っていても次第に枠を意識しながら貼れるようになります。
目と手の協応を促します。



花とストロー
毛糸の紐に、短く切ったストローと、穴の空いた花型の紙を通していきます。それぞれ同じ数が入れ物に入っており、交互に通すことを経験します。

プ ラ イ マ リ ー

黄色バッチが大好きなおしごと

ちょうどおもちゃのガラガラと同じような子どもサイズの円筒を振りながら、いろいろな種類の音を聞き分けていくおしごとです。子どもたちが大好きなおしごとで、赤い円筒と青い円筒が6種類ずつ、それぞれ同じ音を探していきます。「聴覚」に焦点をあて、年齢問わずたくさん子どもたちが毎日のように手に取り、真剣に耳を澄ませて聞き分けていきます。

子どもたちの周りには、様々な音で溢れています。テレビ、携帯電話、電気製品からの終了サインの電子音など、こちらから耳を澄まさないでも、周りから音がやってくる環境は、成長著しい子どもたちの「聴覚」を衰えさせているとも言われています。森の中でさえずる小鳥の声を聞く時のように、能動的に耳を澄ますことで感覚が養われ、子どもたちはその努力を喜んで繰り返します。「雑音筒」まさにその喜びを助けてくれる教具です。私たち大人も、小さな声でゆっくり話しかけてあげることが大切だと思いますね。

雑音筒 (感覚教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

ニドのモンテッソーリ活動



5色の玉

きれいな5色の玉をじっと見て、声を出して、ご機嫌な姿がみられます。焦点を合わせることや、視覚の発達を促します。



半開きの箱

開けると、何が入っているかな？開けたり閉めたり、3本指でつまみ、違う手の動きを体験します。

ICのモンテッソーリ活動



描画(クレヨン)

紙にクレヨンで自由に描く活動です。四角いクレヨンのため、握りやすく弱い力でも描くことができます。力の具合で線の太さや濃さも様々に描けます。



ひも通し(ビーズ)

玉止めされた紐に、穴の開いたビーズを通したり抜いたりする活動です。目と手の協応を養い、紐を引く、ビーズを動かすなど上下左右の腕の動きを促します。

プライマリー

青色バッチが大好きなおしごと

今、青バッチの間では「切手遊び」というお仕事が大人気です。教具を使い、4桁の計算をしていきます。足し算、引き算、掛け算、割り算の中から今回は足し算をご紹介します。使うものは、2cm平方の木製カードです。緑のカードには1と1000、青には10、赤には100の数字が印字されています。例えば2154+3312であれば、緑の1のカードを4つ、青のカードを5つ、赤のカードを1つ、緑のカードを2つ置き、2154の数を作ります。次にその下に同様に3312を置きます。全て並べ終わったら、2つの4桁の切手を合体させ、上からいくつになったか数え、答えを書きます。切手遊びを、教具を通してやり遂げることで、子どもたちは、とても大きい数の計算が、たった一人でできた喜び、楽しそうに次々の問題へと進みます。最初は「先生、一緒にやって」と不安そうに話しかけますが、色々な問題にチャレンジしていくうち「一人でできるから、もう大丈夫」と自信満々になる姿が見られます。

切手遊び(足し算)
数教育



*保護者の方に「お仕事」をご紹介します目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうなつもりでお読みください。